

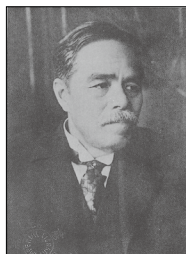


内村鑑三 闘いの軌跡

9月25日発売

関口安義 [著]

新たな内村像の追求!



近代日本の生んだ最大の思想家内村鑑三の闘いの生涯を描く。克明な文献調査と足を使った事実調査が光る労作。内村の近代日本への影響は、多くの人々によって語られ、書物にもなっているが、本書は新しい目で、その生涯をたどり、新たな光を当てる。なお著者は本書の校正中に急逝したため遺作となった。

「わたしの中で内村鑑三が再浮上して来たのは、鑑三の弟子、矢内原忠雄の評伝を書くために資料を収集し、鑑三との関わりを追求することのであった。『評伝 矢内原忠雄』（新教出版社、二〇一九・四）を書きつつ、わたしは内村鑑三という、近代日本の知識人の精神史・思想史を語る場合、落とすことのできない人物を再確認・再発見している。（中略）矢内原忠雄の生涯を一念に書きとどめる作業を通し、わたしは内村鑑三をどうしても調べ抜き、その歩みを、——生い立ちから死までを、評伝スタイルで、描き留めたくなった。」（あとがきより）

◆ 同じ著者の既刊書

評伝 矢内原忠雄

◆ 定価 8800円



目次

- 第一章 敗者の家系と生い立ち
- 第二章 札幌バンド
- 第三章 アメリカ留学
- 第四章 帰国と教員生活
- 第五章 不敬事件
- 第六章 『基督信徒の慰』の刊行
- 第七章 熊本・京都時代
- 第八章 文筆家内村鑑三の誕生
- 第九章 鉅毒事件、反戦論と聖書講義
- 第十章 紙上の教会と再臨待望
- 第十一章 再臨運動と『羅馬書の研究』
- 第十二章 死の陰の谷

牧会書簡

9月25日発売

【現代新約注解全書】

◆A5判・759頁・定価9900円

辻 学著

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の3書簡は、パウロの名を借りたいわゆる偽名書簡である。この謎に満ちた書簡群を徹底的に読み解いた、世界最高水準の記念碑的注解書。『福音と世界』に70回にわたり連載された内容に加筆を施し、堂々完成。邦語で類書に乏しいきわめて貴重な労作。

◆同じ著者による既刊書

ヤコブの手紙 【現代新約注解全書】

◆A5判・300頁・定価5500円

偽名書簡の謎を解く パウロなき後のキリスト教

◆A5判・233頁・定価2420円

隣人愛のはじまり 聖書学的考察

◆四六判変型・200頁・定価1870円

【現代新約注解全書】

田川建三	マルコ福音書	上巻 (増補改訂版) 1:1-6:6	定価 4400円
荒井 献	使徒行伝	上巻 1-5章	定価 6600円
		中巻 6-18章 22節	定価 9900円
		下巻 18章 23節-28章	定価 9900円
佐竹 明	第二コリント書	8-9章	定価 7700円
		10-13章	定価 10670円
佐竹 明	ガラテア人への手紙		定価 7326円
佐竹 明	ピリピ人への手紙		定価 5280円
佐竹 明	ヨハネの黙示録	上巻 序 説	定価 5280円
		中巻 1-11章	定価 9350円
		下巻 12-22章	定価 9350円

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳

イザヤ書註解Ⅰ 1章―10章

イザヤ書註解は、カルヴァンにとって初めての旧約聖書註解であり、1551年に出版された。改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、どれほど真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わってくる。詩篇註解に比肩する膨大な分量であり、邦訳では全5巻となる予定。
A5判・予価60000円

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳

不安とは何か その四つのかたち 〔仮題〕

不安に対処し、バランスの取れた人生を生きるためにはどうすればよいか。深層心理学的視点から不安を4つの類型・パターンリテイに分類し、対処法を豊富な例証と共に記述。1961年の初版以来今日まで100万部近くを売り上げた戦後ドイツのベストセラー。
四六判・予価35000円

〔重版案内〕

袴田巖著／袴田巖さんを救う会編

主よ、いつまでですか 無実の死刑囚・袴田巖獄中書簡
殺人の冤罪で死刑を宣告され、獄中から無実を叫び続けた袴田巖さんが、真実の裁きを求めて綴った書簡。今年3月、東京高裁は静岡地裁の再審開始決定を支持、東京高検が特別抗告を断念し再審開始が確定したことを受けて急遽重版！
四六判・定価16776円

● 7～8月に出た本と雑誌

カール・バルト 《教会教義学》の世界



寺園喜基著

生涯にわたり《教会教義学》に取り組んできた著者が一般読者のために試みた平易な道案内であり、バルト神学への無二の入門書ともなっている。
◆四六判・定価30800円

命に通じる道 「山上の説教」講解



最上光宏著

牧会者として「世のための教会」の形成に心血を注いできた著者が、「今いかに主に従うか」という主の恵みへの応答の課題を「山上の説教」の22回の講解説
◆小B6判・定価16500円

教を通して考える。

福音と世界

◆定価6600円

9月号 反日―その思想・行動・倫理

寄稿者…早助よう子、松井悠子、友常勉、新城郁夫、申知瑛、丸川哲史／連載 今高義也、後藤里菜、飯田華子、金耿昊、長尾優、C・J・サンダース&A・ヤーバー、山崎ランサ、ム和彦、山口陽一、勝村弘也

●新宿駅の東口を出てすぐのところ
「珈琲西武」という喫茶店があります。
東京オリンピックの開催と同じ一九六四年に開店し、最近ではレトロ純喫茶ブームで人気を集めているのですが、その西武がこの八月末をもって閉店・移転するとの知らせを聞き、とても寂しい気持ちになりました。大学院生のころは、朝早くに新宿に行つて映画のチケットをとり、上映までの時間を西武で読書して過ごすのが休日のたのしみでした。小社で働き始めてからは、打ち合わせやインタビュー場所としてお世話になったこと数知れず。一〇月には移転先で新店舗がオープンするそうですし、西口には支店もあるので、お店の味が失われるわけではないのですが、ほかでもなく現存するあの場所にある西武が、いろいろな意味でちょうどよかったのだと思います。長居ができてタバコも吸えて充電用コンセントも設置。映画館や書店に行く前後に立ち寄りやすい立地で、ボックス席や打ち合わせ用の個室もあり。なにより、どんな客層でも受け止めてくれそうな、えも言われぬ空気感。街が変わっていくことは仕方ないとしても（ジェントリフィケーションは論外ですが）、ああいっただいようか。それに、かつてのわたしがそう

だったように、そうした場所があるからこそ本が買われる、読まれる、ということもあると思うのです。（堀）
●山口希生さんの『ユダヤ人も異邦人もなく——パウロ研究の新潮流』の出版を記念し、左記の要領でオンライン連続講義が催されます。
【聖契神学校オンラインセミナー】
講師：山口希生さん
（全5回、Zoomでのオンライン講義）
日時：11月4日（土）、11日（土）、18日（土）、25日（土）、12月2日（土）、
いずれも13時から15時30分まで
申し込み：聖契神学校ホームページより
(<https://seikai-seminary.org/>)
締切は11月1日（水）
受講料：全5回分1万円（税込・一括）
初期ユダヤ教に関する知見が深まることにも（〈行為義認のユダヤ教〉対〈信仰義認のパウロ〉という対立図式の妥当性が疑問視され、パウロの宣教の本質とは何であったかをめぐり激しい議論が戦わされています。山口さんの新著はこの問題を詳細に論じた今年いちばんの話題の書。著者自身が熱のこもった講義をしてくださる貴重な機会ですので、ぜひふるってご参加ください。（小林）

福音と世界

2023年
10

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集：飢餓と食物

大地に息づくいのちのよつに

——エップ・レイモンド&荒谷明子
飢餓に備える——「生命ポリウム」の視点から
飯尾裕光

古代イスラエルの存続と「飢饉・飢餓」
金井美彦

クリスチャンは自ら食べ物を作る者となるか
植木 献

なにを食べへ、だれと共に生きるのか
——二つの農業と二つの哲学——竹之内裕文

ミタスの狂気——資本主義の逆説
福嶋 揚

【好評連載】

◆八木重吉の聖書 4 …………… 今高義也

◆神と「女性的なるもの」を辿つて 5 ……後藤里菜

◆グレート小林と3人の女 6 …………… 飯田華子

◆私は告白する、私の神を 7 …………… 長尾 優

◆地域から考える在日朝鮮人史と教会史 7 ……金歌 昊

◆教会におけるイコノグラフィ 18 ……サンダース、ヤーバー

◆「日本的キリスト教」を読む 21 …………… 山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 22 ……山崎ランサム和彦

◆古代イスラエル文学史序説 32 …………… 勝村弘也